



葦山南小学校
学校だより

学校教育目標:ともに高め合う きららの子



令和6年7月発行 第4号

「地域に信頼
され、地域とと
もにある
学校」を
めざして

家庭学習に主体的に取り組める子供をめざして

校長 土屋 貴俊

子供たちはどんな思いで家庭学習に取り組んでいますか。本校で昨年度実施した学校評価では、95%以上の保護者の方より「宿題を忘れずにやっている」という回答を得ることができました。真面目に学習に取り組めるすばらしい子供たちです。

家庭学習を行う動機は、その日の状況や子供によっても違うと思いますが、「先生に提出するため」「授業で学んだことを補うため」「できるようにしたいため」「学びたいことや知りたいことがあるから」等いろいろだと思います。



学研の教育研究所の昨年度の調査によると、小学生は中学生と比べて「勉強することが楽しいから」「新しいことを知ることができてうれしいから」「問題を解くことがおもしろいから」といった内発的動機づけを理由に家庭で勉強する割合が高く、一方で中学生は「将来いい高校や大学に入りたいから」「友だちに負けたくないから」などの理由で勉強すると答えた割合が高いことが分かりました。中学生は身近な目標を設定し学習に向かっているようです。

やらされている感が強い（外発的動機づけが高い）子供は「とにかくテストの点数がよければいい」「解き方が分からなくても、答えが合っていればよい」と回答した割合が高く、一方で内発的動機づけが高い子供は「難しい問題をじっくり考えたい」、「問題の解き方を何通りも考えたい」と回答した割合が高い結果になったそうです。学習に対して結果よりも思考過程を重視する子供たちは、主体的な学びにつながっているようです。

授業においてもただ正解を求めるだけでなく、誰とどうやってどういう順序で学んでいくかという過程のなかで自己選択、自己決定をしたり、協働の学びで多様な考えを知る機会や、学びを自分でふり返り次の学びにつなげる時間も大切にしたりしています。

また、この調査において家庭での関わり方として以下のようなことを子供たちに伝えていご家庭ほど内発的動機付けが高い傾向になることも分かっています。

- ・ 社会の仕組みや歴史のできごとの背景を伝える
- ・ 問題の解き方の面白さを伝える
- ・ 生き物や自然の不思議さや素晴らしさを伝える
- ・ 身近なことに関連付けて伝える
- ・ 勉強が生活に役立つことを伝える
- ・ 勉強の意義や大切さを伝える

夏休みにはタブレットを持ち帰ります。自分で考えて行動する時間が増えます。決められたこと以外の学びにも興味をもてるよう助言していきます。今日 AI の時代とされていますが、AI にできないことは疑問をもったり問いを立てたりすることです。疑問や問いをもち、自分で学びを進めて「わかると楽しい」「誰かと一緒に考えると勉強になった」「知りたいことが増えた」等の経験から主体的な学びにつながっていくものと思います。子供たちにとってよい経験ができるようご家庭においてもご支援をお願いします。